特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　運営

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①-2	介護職員は充足でき、以前より余裕のある配置ができており、研修参加も増加している。
①-3	介護職員等特定処遇改善加算の算定による手当の創設。産休1名、育休2名ともに復帰予定。
①-4	派遣を活用する事で介護職の新人をスムーズに受け入れる事ができた。超低床ベッド、車椅子等の備品を購入。
①-5	電話機器入替済み。外壁、空調関係R2年度に入札予定。器材に業者によるメンテナンスの実施。会計システム、介護支援システムのクラウド化。
②-1	大木町社会福祉法人連絡会が令和2年4月に発足予定。生活困難者援助1件実施。

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①-1	2月末時点で入所92%、短期入所78%、通所21.8人/日であり短期入所以外は目標未達となった。下半期は目標クリアしたものの、上半期のマイナスを取り戻すに至らなかった。
①-2	看護職を充足する事ができなかった。職員によりスキルアップに対する積極性に差が見られ、自発的な研修参加に偏りがあった。
①-5	特殊浴槽の選定に至らなかった。
②-1	今期はサポーター養成講座受講者がいなかった。
②-2	イベントや職場体験は行ったが、ニーズの掘り起こしまでは至らなかった。

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	介護保険施設として安定した運営を継続出来る体制(人員・設備・財務)を整える。
②	社会福祉法人として地域に貢献できる活動を行う。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①-1	入所実稼働(入院除く)95%、短期入所75%、通所利用者22.5人/日を目標とする。訪問介護の単月黒字化を目指す。
①-2	看護職を充足させると共に介護職の配置を維持し、余裕のある人員配置を確保する。働きやすい職場環境を整える。
①-3	施設全体のサービスレベルを向上させる為に職員個々の能力を向上させる。
①-4	器具・部品を充実させ、職員の身体負担を軽減する。
①-5	設備・備品の更新を継続する。
②-1	大木町社会福祉法人連絡会活動の推進。
②-2	地域との交流を推進し、当法人として出来る活動を行う。

詳細

①-1	協力医療機関・グループ施設との連携により空床を減らすと共に待機者増に繋げる。短期入所から入所に移行できるように利用者を確保する。通所は単純な利用者数増加でなく近隣地域に力を入れる事とし、適切な加算取得を推進する。
①-2	看護職はグループからの応援を含め、費用をかけても補充を行う。職員の産休・育休からの復帰に当たり勤務時間等を柔軟に対応する。定年者の能力に応じて勤務時間等を柔軟に対応し雇用の延長を可能にする。 又、優秀なベテランスタッフを教育係とし若手の指導を行ってもらう。有給休暇の取得推進(70%以上）と福利厚生の充実。
①-3	法人からの指示で経験に応じた高度な研修に参加させる。認知症対応に弱い職員が多い為、認知症関係の研修に参加させる。研修に参加しやすいように人員に余裕を持たせる。
①-4	職員の肉体的負担軽減の為に、超低床ベッド、各種車椅子、乗降用リフト等を整備する。研修等で適切な介護技術を身に付けさせる。
①-5	特殊浴槽の更新を最優先にする。ボイラーはメンテナンスにより安定稼働しており数年先で良いので、厨房機器(洗浄機、冷蔵庫、冷凍庫)を業者の調査結果から優先順位を付け本年度より順次更新。業務用洗濯機、乾燥機は今期には更新行う。
②-1	連絡会での情報交換を行う。居宅介護支援事業所等と連携してのライフレスキュー活動の推進と1名以上のサポーター研修の受講。
②-2	地域から日常的なグラウンド使用の希望もあっており、地区の公民館等と連携し施設で協力できる事を積極的に探す。

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　みのり

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	入居者様の情報を職員間で共有し、多職種とも連携し状況にあった対応が出来た。
②	職員のスキルアップの為の研修に参加することができた。
③	入居者様ひとりひとりにあった声かけと行動要因を把握する事が出来た。
④	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	入居者様の要望に答えられる外出やユニット行事があまり出来なかった。
②	入居者様とゆっくり会話する時間が少なかった。
③	職員とケアについての改善が話し合えていなかった。
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様が楽しく生活できる環境と居心地よく安心して笑顔で過ごせる空間を提供する。
②	入居者様の尊厳を守り、一人一人の声に耳を傾け、意欲・意思を引き出せるよう支援する。
③	職員の介護意識を高め、ケアの統一を行う。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	四季にあったイベントやおやつ作りなどユニットでの活動を行い、日常生活を充実して頂く。
②	入居者様の心理状態を理解し、状況に合った声かけとコミュニケーションの時間を確保する。
③	個々の身体状況を把握し、環境整備や用具を活用して身体機能を引き出すよう努める。
④	入居者様の変化に迅速に対応できるよう職員同士での情報共有・多職種との連携を図る。
⑤	職員の目標に沿った外部研修への参加を行う。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　パラソル

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	ユニット行事を通して入居者様の暮らしの楽しみの機会を作ることが出来た。
①	申し送りノート・ユニット会議等で情報の共有をし業務に取り組むことが出来た。
②	カンファレンス等で多職種と意見交換を積極的に図り、入居者様のケアの見直しを図ることが出来た。
②	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	ヒヤリハットが多く、発生要因の見直しや再発防止に対する職員の意識の足りなさがあった。
①	入居者様より、介護スタッフのケアに対するの不安・苦情が多く聞かれた。
①	外部研修への参加の機会が少なかった。
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様一人一人が安心して過ごして頂けるよう支援する。
②	ヒヤリハット事例の削減・事故防止に努め、安全に暮らして頂けるよう支援する。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	ユニット行事等で入居者様の楽しみとなる機会を計画し実施していく。
②	入居者様の声に耳を傾け、一人一人の要望に応え満足して頂けるよう努める。
③	ヒヤリハット・事故発生時には更なる発生要因を見直し、多職種と連携し再発防止していく。
④	外部研修に参加し、職員一人ひとりの介護技術の向上・意識の改善を図っていく。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ひなたぼっこ

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	業務改善をユニット内で取り入れ入居者様とのコミュニケーションを取れる時間が拡大できた。
①	入居者様の変化に対し他職種への報連相を行いその都度対応を行う事ができた。
②	ユニット行事を増やし入居者様が楽しめる場を提供できた。
②	PDCAサイクルを活用する事でアプローチ・検討を繰り返し対応し入居者様へ その都度対応を変えたアプローチができている。

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	外部研修に参加する職員が少なかった。
①	ユニット全体での取り組みに対し、情報共有がしっかりと出来ていない点がある。
①	各職員との面談等を出来る機会が少なく業務上での問題点等をその都度把握できていなかった。
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	施設理念に基づいた介護提供ができ、入居者様が安心した生活が出来るようにする。
②	チームアプローチにおける情報共有を密にしケア力の向上を目指す。
③	ルーティン業務での見直しを行い、業務改善・入居者様と交流する時間増加を図る。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	外部研修に参加し職員個々の介護ケアの質を向上を目指す。
②	環境整備等にて入居者様が生活しやすい場の提供が出来るようにしていく。
③	入居者様の変化に対する気付き、他職種との迅速な報連相が出来る対応力を養う。
④	業務での検討・見直しを行い入居者様との交流時間増加を図る。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　憩

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	利用者に合わせ、個別レクにて計算やぬり絵等に取り組めることができた。
①	転倒、転落へのセンサーマットやベッド低床の対応を他職種と連携することができた。
②	
②	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	外出に行く機会が少なかった。
①	アセスメントシートより事前に対策は行っていたが転倒、転落の事故件数が２件あった。
①	研修への参加が少なかった。
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	新規利用者、長期利用者の転倒、転落０を目指し利用者の怪我防止に努める。
②	認知症、介護技術のスキルアップを目指す。
③	季節に合った外出を増やす。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	センサーマットや低床ベッドの優先順位を決め、他職種と連携し行っていく。
②	外部研修に一人1回は参加できるようにする。
③	四季にあった外出を計画したり利用者の希望を聞き、外出を行う。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　花園

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	申し送りノートを活用し、情報の共有・意見交換が出来た。
①	サービス担当者会議等で他職種と意見交換ができた。
②	季節ごとに入居者様の要望に応えた食事会を開催することができた。
③	他職種と連携し、ヒヤリ・事故発生時に居室の環境整備など迅速に対応することができた。
④	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	他職種と情報の共有はできたがケアに対する考え方が統一できていない部分があった。
①	外部の研修に参加する職員が少なかった。
①	1月現在で前年度より転倒、転落が増えている。入居者様の状態に合わせた危険予測が不十分だった。
④	業務に追われスタッフに余裕がない姿も見受けられたがその都度業務の見直しができなかった。
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	入居者様、スタッフともに笑顔で過ごせるユニットを目指す。
②	スタッフの知識、介護技術を向上し、ヒヤリ・事故防止に努める。
③	他職種と連携し、ケアの統一・健康維持に努める。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者様一人一人としっかりと向き合う時間を作り、情報収集・情報の共有をする。
②	心にゆとりをもって支援できるよう業務の改善、見直しを行う。
③	入居者様の楽しみになるようなイベントを計画する。
④	研修へ積極的に参加し、知識の向上を図る。
⑤	情報交換を密にし、危険予測、早期発見、改善を行う。
⑥	他職種とも積極的に意見交換を行い情報を共有し、ケアに対する考え方を統一する。
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　ゆとりろ

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	各職員が利用者様の体調不良等に早めに気付くことが出来た。
①	フロア環境整備を行い、安全、リラックスできる清潔感のある環境作りを行うことが出来た。
②	皮膚剥離予防の為、肌の乾燥対策を防ぎ、各職員が保湿対策に努めた。
②	他職種と介助方法の見直しを行い、利用者にあった移乗介助を行うことが出来た。

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	職員間の介助方法にばらつきがり、打撲痕,皮膚剥離に繋がった。
②	職員への指導不足、コミュニケーション不足により打撲痕などが多く見られた。
③	
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	.介護サービス提供の水準を上げるため、教育、指導にも力を入れ、支援する内容や考え方を統一して行く。
②	・ユニットリーダー、ユニット職員の思いや考え方が活かされた、ユニットのカラーを出していく。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	・経験年数に応じた内容の外部研修への参加し、個々のスキルアップを図る。
①	・24Hシートの説明、活用を行い、ケアの統一を行って行く。
②	・各々の意見に歩み寄り、質の良い介護を目指す。又、話し合った内容の振り返りも行う。
②	・入居様の個性や生活リズムのサポートを行い、施設理念に基づいた介護を行う。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　通所介護

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	平均22.5人までは行かなかったが、近い数値まで上げる事が出来た。
①	入院者もいたが、ショートステイや入所につながった。新規の利用者が徐々に増えていき、登録者は増えた。
②	
②	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	介護支援専門員部会への研修へ参加することが出来たが、参加者に偏りができて全員が参加することができなかった。（退職者もいたこともあった）
①	接遇面でサービスの質の向上が足りなかった。
①	
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	各研修に参加できるよう情報の共有、体制つくりを行う。
②	加算算定を行うための取り組み
③	平均利用22.5人を目指す。
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	相談員や他スタッフの各々の業務分担や、介護支援専門員部会や研修への参加。
②	口腔・栄養・認知症加算について担当者会議での提案、長谷川スケールの実施など
③	認知症に関する理解を深め、接遇の向上を目指し、サービスの質の向上を目指す。
④	計画書関連の書類作成をスムーズに行うためにスタッフ全員がパソコンを使用できるように声をかけあう。
⑤	利用者の入院などを未然に防ぐために異常の早期発見や変化の気づきについて情報共有の強化、居宅支援、家族との連携
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　看護

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	褥瘡マネジメント加算の算定ができた。
①	下半期はスキルのある看護職が入り看護面の質があがった。
②	
②	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	前半は人員が落ち着かず安定したサービスを提供できなかった。
①	
①	
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	安定した看護サービスを提供する。
②	多職種との連携を密に行う。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	看護スタッフを充足させる。
②	各委員会等で専門知識を活用する。
③	担当者会議等で専門職の見地からの意見を発するようにする。
④	病院の医療スタッフとの連携を行う。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　リハビリ

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	心身の評価を通し、日々の状態に合わせながら、リハビリの提供が行えた。
②	症状に適したベッドポジショニングや車いす上での姿勢ケアが行えた。
③	施設内勉強会を通して、車いすシーティングや福祉用具などの助言や情報の提供が行えた。
④	
⑤	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	外部勉強会・セミナーへの参加
②	生活行為の向上や楽しみをみいだすリハビリの提供
③	スタッフに対しての起居動作やポジショニング・車いすシーティングなどの提案が不十分であった。
④	入居者にとって達成感や満足感のあるリハビリの提供（目標がみいだせるように支援）が不十分。
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	個別的生活支援の強化/入居者の意思を尊重し、状態や負担を考慮したﾘﾊﾋﾞﾘの提供 日常生活行為がやりやすい環境作り
②	姿勢ケア（ベッド上・車椅子座位）の強化
③	介護職員に対して指導・援助（安楽を考慮した起居動作やポジショニング・車いすシーティングなど）
④	福祉用具や自助具の提供/研修・セミナー・勉強会への参加
⑤	リスク委員会マニュアル見直し

目標達成のための具体的な施策／活動

①	入居者に対する評価・機能訓練計画策定（見聞録内リハ計画書に変更）・実施・見直しなど 日常生活を営むのに必要な機能低下の防止や日常生活に変化をもたせ体を動かすことを支援、 コミュニケーションやＱＯＬの向上などの関わりに取り組んでいく。
②	ベッド上や車椅子上での安心安楽な姿勢を提供し、介護職とケアの統一に取り組んでいく。
③	入居者・スタッフに対して起居・移乗時「身体の使い方」を誘導・助言・指導。 食事摂取時，姿勢(ポジショニング)に配慮し，誤嚥の予防(嚥下リハビリの実践)，食事摂取率の向上，摂取時間の効率化(余裕を持った摂食介助)，食事摂取時のリスクを軽減し，摂食・嚥下機能の維持と向上や自立性の向上に取り組む。 重度障害やターミナル期の入居者に対しては，ベッド上ポジショニングに配慮して，褥瘡予防と対策、呼吸状態の安定と安楽を図り，循環障害や変形拘縮の予防，改善，疼痛緩和などに努める。
④	入居者へ適切な評価を行い、福祉用具や自助具の情報提供とスタッフの介護負担の軽減に 取り組む。 入居者の日々のリハビリに支障がでない形で研修会や勉強会に参加できればと考える。 特養ならではのリハビリの提供を心がけ、入居者が充実した暮らしがおくれるように、生活環境設定や福祉用具の活用など技能や知識のスキルアップに努める。
⑤	マニュアルのチェツク体制の構築と業務の進め方を見直し、リスク軽減を考える。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　居宅介護支援

＜平成元年度方針＞

令和元年度の成果／目標達成できたもの

①	利用者・家族の意向を尊重した支援ができた。
②	医療機関（主治医・ＭＳＷ・ＰＳＷ）との連携し、入退院時の情報共有が図れた。
③	包括からの処遇困難事例対応、居宅支援の依頼、地域ケア会議等出席、介護予防支援委託等で連携した。
④	施設内外の研修への積極的に参加(大木町ケアマネ連絡会の講師及びファシリテーターなど)した。
⑤	介護保険制度改正について事業者内で共有し、公表制度においても指摘はなかった。

令和元年度の反省／目標達成できなかったもの

①	ＣＭが３人体制になり、一時期は居宅支援件数100件越もあったが、その後90件代に減少した。
②	
③	
④	
⑤	

＜令和2年度方針＞

活動方針／目標

①	居宅支援件数を増やす。１か月の給付目標は上限の105件とし、予防委託はその都度検討する。
②	入院や入所に移行する事なく、在宅生活が維持できるよう社会資源を熟知する。
③	介護支援専門員のスキルを高め、利用者や家族に誠意をもって接し、依頼件数を更に増やす。
④	地域の取り組みに積極的に参加して、民生委員や地域住民へ「いちごケアプラン」の周知度を高める。
⑤	近隣の医療や介護サービス事業者との関係性を深め、「いちごケアプラン」の知名度を高める。

目標達成のための具体的な施策／活動

①	・利用者や家族の支援において、課題の整理、ニーズの把握、サービス調整等を適切に行う。 ・包括支援センターやサービス提供事業者と情報共有を深め、自立支援に向けた取り組みを行う。 ・生活状況に応じて、インフォーマルサービスの提案、サービス利用支援を行う。 ・包括支援センターからの処遇困難事例に積極的に対応し、包括との連携を深める。 ・併設事業者との連携・協力体制を深める。 ・ターミナルケアマネジメント加算の申請と算定 ・特定事業所加算要件の継続 〇職員の健康管理 〇週１回の居宅会議で情報を共有する。 〇運営基準減算・特定集中減算を受けない。 〇介護支援専門員の実務研修の受け入れ。社会福祉士の実習の受け入れを行う。 〇居宅支援マニュアルの見直し。
②	・医学的知識を深めると同時に、必要時医療機関との連携を密に行う。 ・地域の社会資源の活用や関連施設との連携を深め、サービス調整を適切に行う。 ・併設の通所や短期入所事業所と連携し、在宅支援を強化する。
③	・地区行事に参加し、日頃から高齢者と顔なじみの関係を作る。 ・施設内外の研修に積極的に参加する。 ・主任介護支援専門員研修を受ける（古川CM）。
④	・大木町主任ＣＭ会に参加して、地域のCMと協働した取り組みを行う。 ・大木町地域ケア会議に事例を提供する。 ・大木町ケアマネ連絡会におけるファシリテーターや講師依頼は積極的に受ける。 ・民生委員会との連携が取れる関係性を構築する。 ・町内で開催される認知症サポーター養成講座にファシリテーターとして参加する。
⑤	・入院時、医療機関へ必要な情報提供を速やかに行い、入院加算の算定要件を満たす。 ・退院時、医療機関への情報収集や必要に応じたサービス調整を行い、退院加算算定要件を満たす。 ・介護サービス公表制度を活用し、適切な居宅支援業務の見直し・振り返りを行う。 ・介護保険制度の動向に注視し、必要な情報収集、取組みを行う。　・介護支援専門員として必要な研修を受講する。
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム『いちご』

部署　　：　　訪問介護

令和１年度の成果／目標達成できたもの

①	
①	
②	
②	

令和１年度の反省／目標達成できなかったもの

①	
①	
①	
④	
⑤	

＜令和２年度方針＞

活動方針／目標

①	利用者を増やし、安定した運営ができるようにする。
②	月次での収支がﾏｲﾅｽにならない月をつくる。
③	
④	
⑤	

目標達成のための具体的な施策／活動

①	サービスのレベルを上げて、リピーターを増やす。
②	特養との兼務職員を活用して提供可能な時間を増やす。
③	居宅の介護支援専門員と密に連絡を取り合い、紹介を依頼する。
④	提供時間と移動時間とを勘案し、無理な依頼は断る。
⑤	
⑥	
⑦	

特別養護老人ホーム　いちご　SWOT分析　R２

強み	弱み
・色々な研修へ参加する機会がある ・有給休暇をスムーズに使う事が出来る ・掃除・シーツ交換の外部委託により業務負担の軽減になっている ・他職種との情報共有がスムーズに行える環境である為、入居者様へ素早い対応が出来る ・柳川県道沿いに位置し分かりやすい場所に所在している ・福田病院をはじめ医療との連携があり、受診対応など素早い ・通所とショートステイの併用もあり、近い環境や情報共有もできる。 ・個別機能訓練を行うことで身体機能の維持、向上を支援している。 ・有休消化がしやすくなったり、福利厚生が手厚くなっている。 ・現場がわかる施設長への報連相がしやすい。	・看護での早出をする職員が施設長へ偏る ・介護業務多く、入居者様と余裕を持って関わる時間が無い ・入居者様の認知度が悪化傾向にあり、職員への精神的負担が多くなってきている ・休憩時間も常に入居者様と一緒の為、きちんとした休憩時間を取れず午前中の疲れをリセット出来ない。 ・職員の外部研修への参加が少ない .リーダー交代が長年ない（他職員もリーダーを経験することにより、施設、個人の成長に繋がるのではと思う） ・日曜、正月など1階が不在となり昼間の防犯対策としては不安を感じる。 ・認知症などの理解不足により、イライラが言葉として現れ、接遇面の低下につながる
機会	**脅威**
・自分が興味を持った研修に参加できスキルアップを図れる。 ・地域保育園との交流がある。慰問など ・自施設や近隣の居宅支援事業所があり、通所利用者の紹介や利用依頼がある。	・職員の平均年齢の上昇にともなう体力の衰え（腰痛・疲労感等） ・職員への精神的負担が多くなってきている為、体調や介護業務等に支障をきたす恐れ ・近隣に特養や老健施設が多い